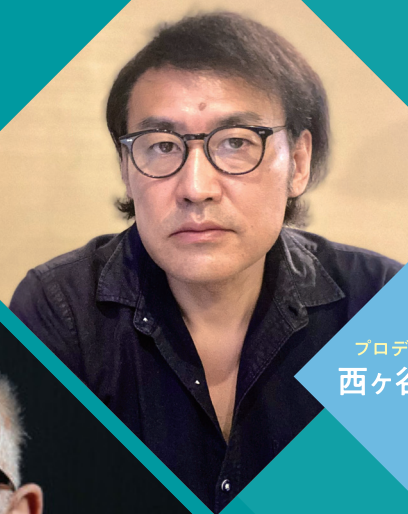


東京国際映画祭2024

福島浜通り映像・
芸術文化プロジェクト



プロデューサー
小川 真司



プロデューサー
西ヶ谷 寿一



フィルムメーカー
タル・ベアラ



フィルムメーカー
アーティスト
小田 香

福島浜通り 2024 11.3 SUN

巨匠タル・
ベアラとみる

福島
浜通りでの
映画
づくり

福島県浜通りに新たな魅力を創出する経産省の取組「福島浜通り映像・芸術文化プロジェクト」。昨年、同プロジェクトの一環として実施されたアーティスト・イン・レジデンス事業（避難指示等の対象となった福島県 12市町村に一定期間滞在しながらの映画、演劇、現代アート等芸術作品の制作を支援）において招聘され、マスタークラスを開催したハンガリーの巨匠「タル・ベアラ監督」を迎え、受講生の作品及び小田香監督によるマスタークラスの記録映像の上映と、スペシャルトークイベントを開催します。

◆「FUKUSHIMA with BÉLA TARR」 記録映像上映

タル・ベアラ監督による映画マスタークラス「FUKUSHIMA with BÉLA TARR」に参加した、映画監督の小田香が撮影・編集したマスタークラスの記録映像の上映を行う。

時間 10:30~13:50

会場 角川シネマ有楽町

登壇者 小田香

◆スペシャルトークイベント ～巨匠タル・ベアラとみる福島浜通り～

タル・ベアラ監督による冒頭挨拶の他、小川真司プロデューサー・西ヶ谷寿一プロデューサー・小田香監督登壇によるスペシャルトークイベントを開催。

時間 15:30~17:30 頃

会場 東京ミッドタウン日比谷『BASE Q』

特別ゲスト タル・ベアラ

登壇者 小川真司、西ヶ谷寿一、小田香、その他

スペシャル
トークイベント
事前お申し込み制

[人数]120名様 **先着順**

[応募期間]

10.21(月)12:00~

10.30(水)23:59

※先着順。枠が埋まり次第受付終了。

お申し込みフォーム



2024.10.31(木)

10:35~

会場:角川シネマ有楽町

「FUKUSHIMA with BÉLA TARR」

ワークショップ制作映画上映・舞台挨拶

主催 経済産業省

巨匠タル・ベーラとみる福島浜通り

◆「FUKUSHIMA with BÉLA TARR」 記録映像上映

時間 10:30~13:50 会場 角川シネマ有楽町
登壇者/小田香



◆スペシャルトークイベント

時間 15:30~17:30頃 会場 東京ミッドタウン日比谷『BASE Q』



特別ゲスト/タル・ベーラ
登壇者/小川真司、西ヶ谷寿一、小田香、その他



フィルムメーカー
タル・ベーラ Béla Tarr

1955年、ハンガリー生まれ。デビュー作『ファミリー・ネスト』(77)はハンガリー批評家賞新人監督賞、マンハイム国際映画祭でグランプリ受賞。1994年発表の『サタンタンゴ』はベルリン映画祭フォーラム部門カリガリ賞を受賞。その後の主な作品に『ヴェルクマイスター・ハーモニー』(00)、ジョルジュ・シムノン原作『倫敦から来た男』(07)など。2011年発表の引退宣言作『ニーチェの馬』はベルリン映画祭銀熊賞と国際批評家連盟賞を受賞。1990年以降、ベルリン・フィルム・アカデミーの客員教授を務め、2012年にサラエボに映画学校film.factoryを創設。2016年の閉鎖後も世界各地でワークショップやマスタークラスを行い、後進の育成に取り組む。2023年、ヨーロッパ・フィルム・アカデミー名誉賞を授与される。



フィルムメーカー / アーティスト
小田香 Kaori Oda

1987年大阪府生まれ。フィルムメーカー、アーティスト。
イメージと音を通して人間の記憶(声) — 私たちはどこから来て、どこに向かっているのか — を探究する。映画作品に『鉾ARAGANE』(15)『あの優しいさへ』(17)『セノーテ』(19)ほか。



プロデューサー
小川真司 Shinji Ogawa

63年生。三重県出身。ゲームソフトのプロデューサーを担当した後、アスミック・エース エンターテインメントで映画プロデューサーに携わる。2012年7月に株式会社ブリッジヘッドを設立。主な代表作は『ピンポン』(02年/曾利文彦監督)、『ジョゼと虎と魚たち』(03年/犬童一心監督)、『ノルウェイの森』(11年/トラン・アン・コン監督)、『浅田家!』(21年/中野量太監督)、『ナミビアの砂漠』(24年/山中瑠子監督)。



プロデューサー
西ヶ谷寿一 Toshikazu Nishigaya

70年生。静岡県出身。03年に東京テアトル入社。新人監督の発掘と育成を企画の根幹に据えてプロデューサーを行う。
『人のセックスを笑うな』(08年/井口奈己監督)、『南極料理人』(09年/沖田修一監督)『さかなのこ』(22年/沖田修一監督)、『逢国日記』(24年/瀬田なつき監督)など。最新作である『ぼくのお日さま』(24年/奥山大史監督)は第77回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門に正式出品。



相双フィルムコミッション代表
根本李安奈 Liana Nemoto

福島県南相馬市小高区出身、28歳。日本大学芸術学部映画学科を卒業後、2024年2月に「一般社団法人相双フィルムコミッション」を設立し、代表理事を務める。福島県の沿岸部のロケーションを広く発信するために活動中。

10月31日(木)
10:35~
会場:角川シネマ有楽町

「FUKUSHIMA with BÉLA TARR」ワークショップ制作映画上映・舞台挨拶

2024年2月に福島浜通りで実施された、ハンガリーを代表する映画作家タル・ベーラによる映画マスタークラス「FUKUSHIMA with BÉLA TARR」で、受講生らが浜通りに実際に滞在し台本制作から撮影まで行った作品を上映。

福島浜通り映像・芸術文化プロジェクト

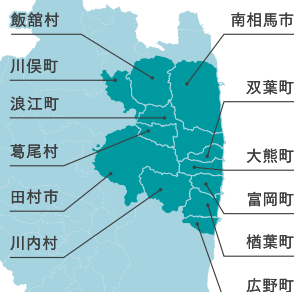
経済産業省では、東日本大震災被災地において、産業・地域経済の再生だけでなく、映画をはじめとする「文化・芸術」を通じた地域の新たな魅力創出を目的として、若手の有志職員が「福島浜通り映像・芸術文化プロジェクト」を2022年7月に立ち上げ、映像・芸術文化を通じた魅力あるまちづくりに向けた取組を推進してきました。

その後、活動をより本格化させ、芸術家の滞在制作支援や、映画や音楽に関するイベント開催などを予算事業も活用しつつ、組織的に推進するため、「福島芸術文化推進室」を2023年6月に設置しました。

今年度は、以下のプロジェクトを展開しています。



一昨年実施した福島浜通りシネマプロジェクトの様子



ハマカルアートプロジェクト

福島12市町村の持続的な発展に向け、地域内での地域住民との交流を含む組や場づくり及び作品制作を行う学生プロジェクト等への支援事業を行っています。

映像芸術文化を通じた関係人口創出事業 (通称「ハマコネ」)

福島12市町村の関係人口の増加や自律的な活動の創出と継続に向け、ジャンルを問わないアーティスト等と地域住民、事業者・団体が協働するプロジェクト等への支援事業を行っています。

お問い合わせ

大臣官房福島復興推進グループ 福島芸術文化推進室
メール: exl-s-fukushima-bunka@meti.go.jp



ハマカルアートプロジェクトHP



ハマコネHP